

下鴨

京都市立下鴨小学校 TEL 075-781-0382

校長 安村 俊輔 FAX 075-781-6976

HP <http://www.edu.city.kyoto.jp/hp/shimogamo-s/>



令和5年度後期「『みんなで成長』アンケート」の結果について

平素は本校教育活動にご理解、ご協力いただき、ありがとうございます。

さて、1月末から2月はじめにかけて実施いたしました「『みんなで成長』アンケート」につきまして結果をまとめましたので、みなさまにお伝えいたします。なお、学校運営協議会でも本結果をもとにご意見を頂戴しましたので、その内容も併せて記載しております。本結果をもとにこれまでの教育活動等を振り返り、本校の子どもたちはもちろんのこと、本校に関わりのある方々も含めまして共に「みんなで成長」できる下鴨教育をめざしていきます。今後とも、どうぞよろしくお願いいたします。

学校教育目標

**学びを創造し、
共に挑戦する
子どもの育成**

めざす子ども像

下鴨小の「a・i・u・e・o」

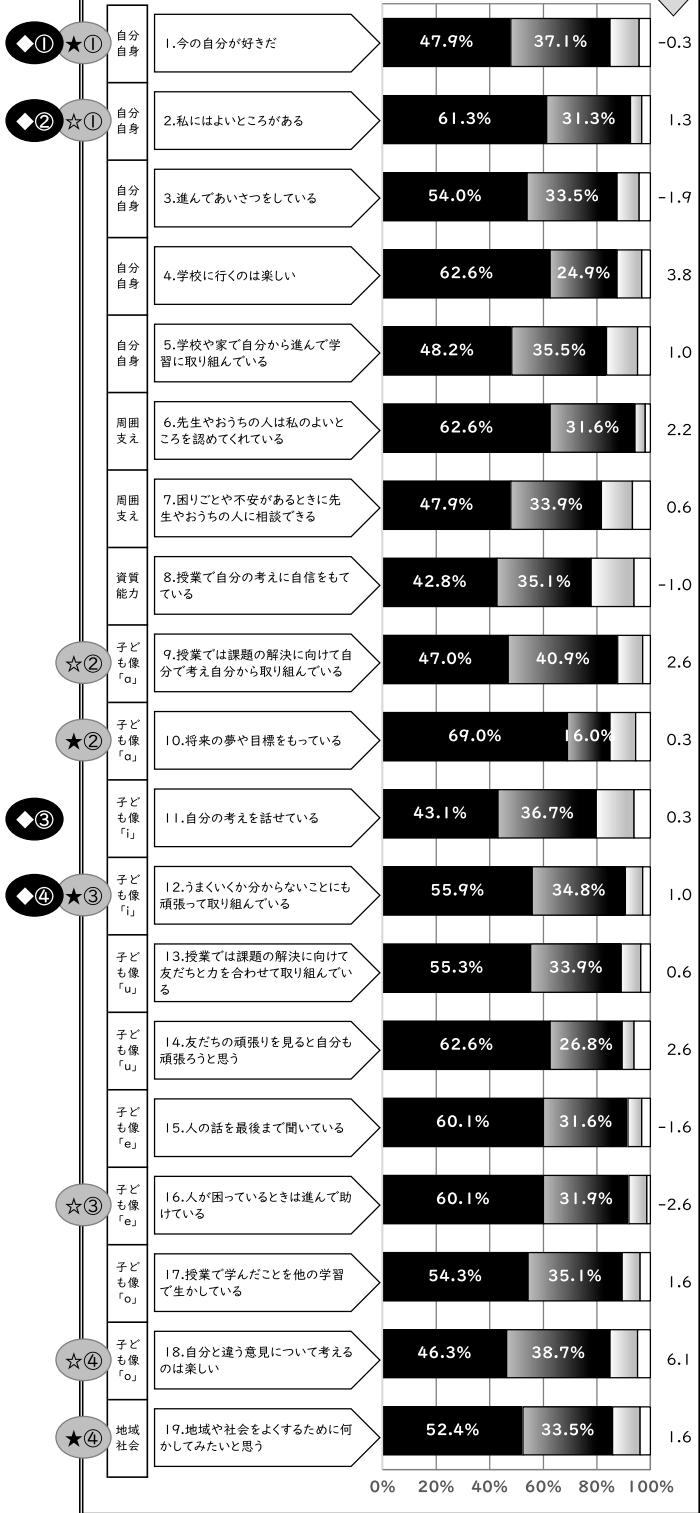
- a**mbition : 見通しをもった志のある子
- i**nnovation : 新たなことにチャレンジする子
- u**nity : 共に力を合わせる子
- e**steem : 自分も相手も大切にする子
- o**riginality : 自分らしい学びを創り出す子



【児童】

有効回答数：313

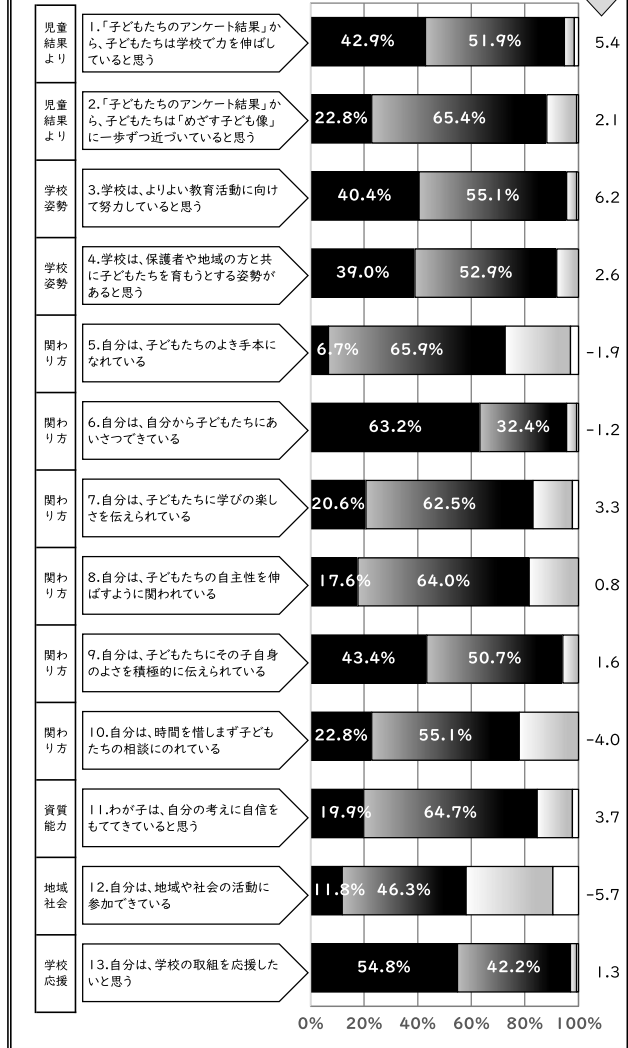
令和5年度前期の肯定的回答率との比較



【保護者】

有効回答数：136

令和5年度前期の肯定的回答率との比較



(カテゴリー)

(質問項目)

あてはまる

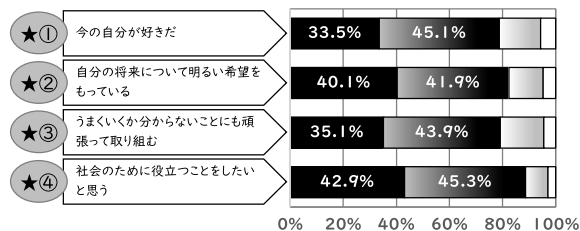
どちらかといえば あてはまる

どちらかといえば あてはまらない

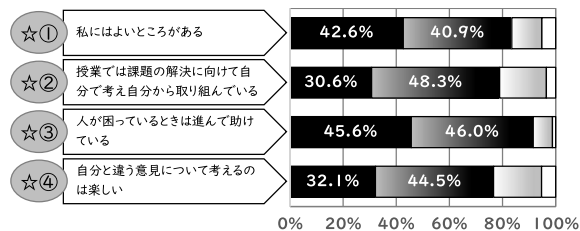
あてはまらない

全国的な傾向は…

【参考①】 内閣府「こども・若者の意識と生活に関する調査」報告書（令和5年3月）内、「10歳～14歳対象調査」より



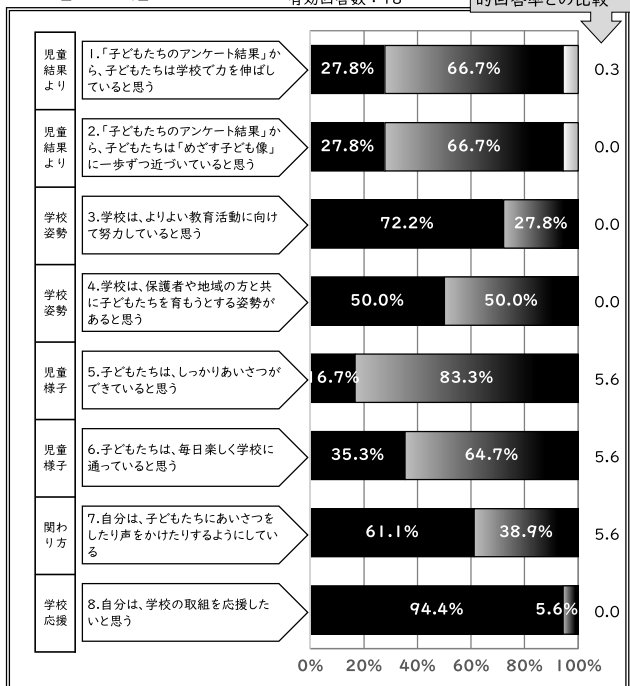
【参考②】 文部科学省・国立教育政策研究所「令和5年度 全国学力・学習状況調査」報告書「質問紙調査【速報版】」より



【地域】

有效回答数：18

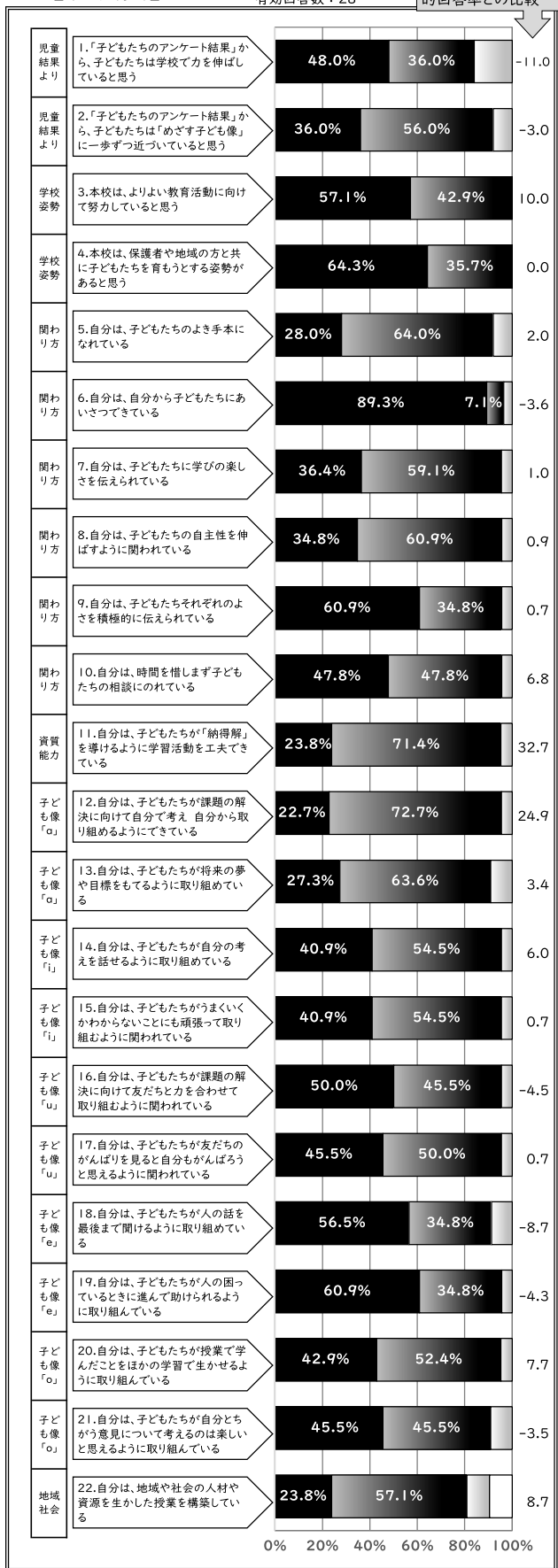
令和5年度前期の肯定的回答率との比較



【教職員】

有效回答数：28

令和5年度前期の肯定的回答率との比較

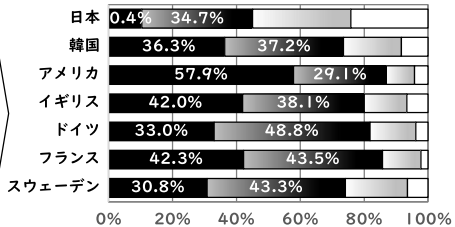


世界的な傾向は…

【参考③】 内閣府「我が国と諸外国の若者の意識に関する調査」
(平成30年度)報告書より

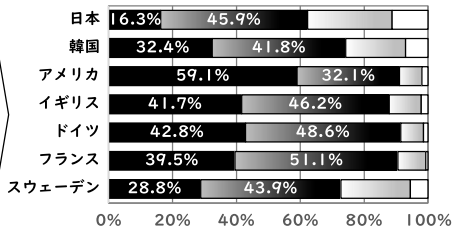


私は、自分自身
に満足している

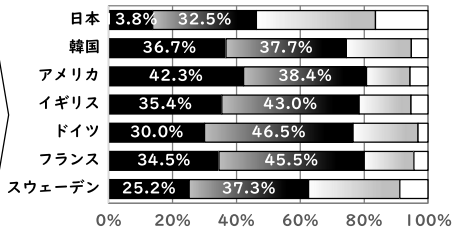


◆②

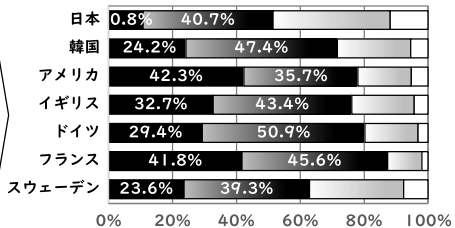
自分には長所
があると感じて
いる



自分の考えを
はっきり相手に
伝えることがで
きる



うまいかわ
からないこと
にも意欲的に取
組む



《各アンケート結果より》

児童アンケートより

児童アンケートにおいては前期と同様に、後期も「あてはまる」「どちらかといえば あてはまる」を合わせた肯定的な回答はいずれの項目においても高く、子どもたちの意識の高さがうかがえました。その肯定的な回答率について前期と比較すると、「18. 自分と違う意見について考えるのは楽しい」が6. 1ポイント高くなっています。【参考①】、【参考②】の全国的な調査結果を踏まえて見てみると、前期の段階から本校児童が低いというわけではありま

したが、「協働的な学び」に注力した結果が垣間見られたと感じています。また、「4. 学校に行くのは楽しい」の項目では前期と比較して3. 8ポイント高くなっていることから、上記のような他者との関わりを通して子どもたちは学びの意欲や楽しさを感じているのではないかと捉えています。しかし一方で、「8. 授業で自分の考えに自信をもっている」や「11. 自分の考えを話せている」の項目については、前期と比較して多少の増減はあるものの肯定的な回答率が8割を切っており、他の項目と比較すると低い結果でした。今回は3ページに「世界的な傾向は…」として【参考③】に内閣府の「我が国と諸外国の若者の意識に関する調査」(平成30年度)の結果(一部抜粋)を載せています。これは5年ごとに実施される調査のため少し以前のものであり、対象年齢は満13歳から満29歳までのため、本校の結果と一概には比較できません。ただ、本校の子どもたちがその年代になる頃にはどのような意識になっていくのかを見通すひとつの材料にはなるかと思

います。その資料を見てみると、日本の若者は諸外国と比較すると意識が低い様子がうかがえます。意識の結果が低いからといって資質や能力の高さを測ることはできませんし、そもそも控えめに答える傾向のある日本の国民性も大きく影響しているのではないかと考えられます。学校運営協議会でもご意見をいただいたことですが、昨今はスポーツをはじめ多くの分野で日本で生まれ育った方々が世界の舞台に進出し、大活躍されている例がたくさん見られるようになってきました。このことも考え合わせると、現在の小学校年代の子どもたちが若者の年代になる頃にはさらに諸外国の意識に並ぶ結果となることも十分予想されます。そう考えると、本校において今回の結果に表れている子どもたちの前向きな意識を持続、上昇させていくことが一層大切になります。

これらのことから、本校が育成をめざす資質・能力である「納得解を導く力」をより具体的にしてい

「保護者アンケート」中に記述にいただいたご意見等については、3/13(水)～3/19(火)の平日9:00～17:00まで職員室にて閲覧いただけますので、ご希望の方は職員室にお声かけください。

保護者・地域アンケートより

保護者・地域アンケートの結果において、「1. 『子どもたちのアンケート結果』から、子どもたちは学校で力を伸ばしていると思う」の項目の肯定的な回答率がとても高いだけでなく、保護者アンケートにおいては前期と比較して5. 4ポイント増加していました。また、「3. 学校は、よりよい教育活動に向けて努力している」の項目についても肯定的な回答率が非常に高く、地域アンケートでは100%、保護者アンケートにおいても前期と比較して6. 2ポイント増加していました。アンケート項目で伝えきれない点についての記述欄にも本校の教育活動を応援していただいているお言葉や教職員の子どもたちへの関わりを後押ししていただいているお言葉などから、本校に対する温かいまなざしを向けてくださっていることを実感し、非常に励まされると共に今後の活力となっています。まずはここに御礼申し上げます。ありがとうございます。

さて、この保護者アンケートの結果で前期と比較して肯定的な回答率が減少しているのが、「12. 自分は、地域や社会の活動に参加できている」の項目です。学校運営協議会でも話題に上がりましたが、これはコロナ禍以前に比べると地域行事の数が減っていることや子どもたちの習い事などで時間がとれないといったこととの関連があるのかもしれませんが。実際には各種団体主催の地域行事に参加されているご家庭やお手伝いを申し出てくださいるボランティアの方が増えてきた印象があるというご意見もいただきました。本校としても社会科や総合的な学習の時間などで地域の方に協力いただき、ゲストティーチャーとして子どもたちにお話しいただいたり施設を見学させていただいたりすることを徐々に増やしています。そのような活動によってまずは子ども自身がこの下鴨の地域の魅力や活力を実感し、それに関わるような地域行事があった際には子どもを通して行事への参加が増えればと考えています。そのような流れの中で、子どもを取り巻く保護者、地域、学校の連携がさらに高まっていくことをめざしたいと思

います。アンケート項目で伝えきれない点の記述欄では、児童アンケートの後期のみの結果では子どもたちの力が伸ばせているのか判断できないといったご意見や前期の結果と比較しての数値を載せてはどうかといったご提案をいただきました。そこで、本資料において「令和5年度前期の肯定的回答率との比較」として各項目の右側に数値を載せるようにし、このページの文面内でも活用しております。

さらに記述欄では、3・4年生のアンケート結果が他学年と比較すると肯定的な回答率が低い項目が多いことから心配のお言葉もいただきました。これについても学校運営協議会の方からご意見をいただきましたが、3・4年生という年代はいわゆる「ギャングエイジ」の年代であり、直感的に物事を捉える傾向のある低学年と、他者と対比して考えるというように相対的に物事を捉える傾向が芽生えてくる高学年との狭間であるがゆえの結果ではないかと考えられます。そう考えると、中学年の3・4年生の意識を高めることができれば、それはすべての学年の子どもたちの意識の底上げにつながるのでしょう。そのためには、学校はもちろんのこと各ご家庭などにおいても子どもたちが他者のよさに目を向け、それを受け入れながら自身の適切な判断や言動に生かせるよう、視野を広げたり自身の言動を振り返ったりするといった関わりを通して子どもの成長を後押しできればと思います。

今回もお忙しい中ご回答いただき、かつ貴重なご意見をいただいたこと、ありがとうございます。今後とも、保護者の皆様、地域の皆様

教職員アンケートより

前期は本校の育成をめざす資質・能力に関わる「11. 自分は、子どもたちが『納得解』を導けるように学習活動を工夫できている」の項目において、肯定的な回答率が低かったため課題を感じていました。本校は今年度から育成をめざす資質・能力を「納得解を導く力」としていますが、私たち教職員間でも捉え方が様々な面がありました。それを授業を通じた研究を積み重ね、徐々にその具体的な姿を共有できてきたのではないかと

思います。その結果、「12. 自分は、子どもたちが課題の解決に向けて自分で考え自分から取り組めるようにできている」の項目も含めて前期よりも肯定的な回答率が増加したのではないかと考えています。一方で、「1. 『子どもたちのアンケート結果』から、子どもたちは学校で力を伸ばしていると思う」の項目において前期と比較すると、肯定的な回答率が1. 0ポイント下回る結果となりました。また、多くの項目において「あてはまる」と自信をもって答えられていない現状も見受けられます。これは、上記のように育成をめざす資質・能力においてはある程度共有できてきたものの、具体的な全校共通の取組を構築するといった方策が定まり切っていないことの影響ではないかと捉えています。私たち教職員間では、学校として子どもたちの学びにつながる効果的な取組や効率的な工夫について知恵を出し合う機会をこの3学期から定期的に

にもつようにしていますが、その機会をさらに機能させ、互いの経験値を生かしながら「創造」と「挑戦」の思いをもって子どもたちの意識を高める関わり方を追い求めていきたいと考えています。子どもは日々成長し、変化していくことを踏まえると、私たち教職員もその時々に応じて関わり方やめざす方向性をフレキシブルに変えていくことが求められています。よりよい下鴨教育をめざすという志のもと、その対応力を日々の教育活動を通じて鍛えていき、よき実践者として邁進していく所存です。次年度も引き続きご支援、ご協力いただきますよう、よろしくお願いいたします。

学校運営協議会理事会・開かれた学校委員会からのコメント

児童では前期に比べて、自らの取組やがんばり、自分と違う意見を考える楽しさ、先生や保護者から認められていることなどが向上し、学校に行くこともより楽しくなっているようです。しかし、人を助ける、人の話を聞くなどはやや低下しています。これらは、後半になって学習に慣れてきたこと、先生やクラスの友だちともなじんできたと同時に、人の話を聞いたり手助けしたりする機会がやや減ったためかもしれません。下鴨の子の特徴なのか、自己肯定や自信、積極的な発言などは全体としてやや低めになっていきますし、どの項目でも「あてはまらない」「ややあてはまらない」と回答している児童が一定の割合いることは気になります。特に中学年ではその傾向が強いようです。年齢的な特性、学習内容の高度化、その他さまざまな要因があり、学校、家庭のそれぞれでできることには限界もあります。学校には集団の中で個々の児童の様子や学習状態にも気を配って支援と保護者との連携をしていただき、保護者の皆さまにはお子さまの心身を受け止め育むために家族としては何ができるかを改めてお考えいただけたらと思います。保護者の皆さまの回答は、全体としては学校に対する支持が高い結果になっており、とてもありがたいです。子どもたちにおき、自分を認め他者と手をつなぎ自信を持って生きてほしいです。知識だけでなく、どのように考えて結論を出す(答を導く)かという過程(プロセス)を身に付けてください。地域活動にも積極的にご参加いただき、さまざまな体験的な学びの機会として生かしていただけたらと願っています。